

発達障害教育実践セミナー及び発達障害地域理解啓発事業の紹介

竹村洋子*・江田良市*・横山貢一*・玉木宗久*・
西村崇宏*・平沼源志*・半田 健**・笹森洋樹*

(*発達障害教育推進センター) (**宮崎大学, 元国立特別支援教育総合研究所)

要旨：発達障害教育推進センターは発達障害教育情報センターの機能を拡充し、今年度よりスタートした。その新規事業である「発達障害教育実践セミナー」及び「発達障害地域理解啓発事業」について今年度の取組を紹介する。発達障害教育実践セミナーは、7月28日に一橋大学一橋講堂に於いて開催された。テーマを「通級による指導に期待されること」とし、全所的な協力を得て、基調講演、シンポジウム、分科会の構成で実施した。発達障害地域理解啓発事業では、習志野市(8月2日)、川崎市(8月7日)、徳島県(8月23日)、宮崎県(11月16日)の4地域で教育委員会や発達障害者支援センター等、関係機関と連携して事業展開した。具体的には、教材教具等展示、心理的疑似体験、研修講義DVDを用いたミニ講義、研究紹介を一つのパッケージとし、担当者との打ち合わせを通して、各自治体の意向を十分に汲みながら構成・内容等を検討して実施した。

見出し語：発達障害教育、関係機関との連携、講演、シンポジウム、分科会、理解啓発ワークショップ

I. はじめに

発達障害教育推進センターは、昨年度までの発達障害教育情報センターの機能を拡充し、情報・支援部より独立する形で設置された。発達障害に関する最新情報や国の動向等についてインターネット等を通じて幅広く国民に情報提供することに加え、発達障害教育に関する理解推進と実践的な指導力の向上を図ることをミッションとしている。そして、それらのミッションを果たすための中核となる事業として、発達障害教育実践セミナーと発達障害地域理解啓発事業の二つを掲げている。

本稿では、これら二つの新規事業について、今年度の取組を紹介し、発達障害教育推進センターの事業報告としたい。

II. 発達障害教育実践セミナー

発達障害教育実践セミナーは、発達障害のある幼児児童生徒に対する指導・支援に関して、教員及び

教育委員会等の関係者を対象として理解推進と実践的な指導力向上を図ることを目的としている。具体的には、発達障害教育に関する最新情報や各地の取組の紹介、実践事例の報告、研究協議等を通じて目的の達成を図ることとしている。今年度の取組の概要を以下に述べる。

1. 開催場所とプログラム

開催日時：7月28日(金)

開催場所：一橋大学一橋講堂

テーマ：「通級による指導に期待されること」

参加対象：幼稚園・小学校・中学校・義務教育諸学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校等の教員、教育委員会・教育センター等の指導主事等。

定員：200名

日程：9:00～ 9:30 受付

9:30～ 9:40 開会(国立特別支援教育総合研究所理事長による挨拶)

9:40～11:00 基調講演

- 11:00～12:30 シンポジウム
- 12:30～13:50 昼食・休憩（研究パネル展示
及び配信講義放映等）
- 13:50～16:30 分科会

2. 内容

1) 基調講演

演題：「これからの通級による指導に望まれること」

講師：柘植雅義氏（筑波大学教授）

概要：はじめに、これからの通級による指導に望まれることについて概括され、その後、6つの話題（1. 学級の歴史と通級の歴史、2. 通級の意義と役割、3. 通級の内容と方法、4. 小学校・中学校の通級のさらなる充実、5. 高等学校の通級への期待、6. 幼稚園の通級への期待）にそって講演が展開された。インクルーシブ教育システムが目指す共生社会の実現に向けて、通級による指導が担う役割がとても大きいとのことであった。

参加者からは、「指導者としての意識の持ち方を考えさせられ、とても刺激になった」、「教育にもエビデンスが求められていることを知り勉強になった」といった感想が寄せられた。

2) シンポジウム

テーマ：「通級による指導とわたし」

シンポジスト：フワリさん（仮名，大学生），堀川淳子氏（元通級指導担当教員），田中裕一氏（文部科学省特別支援教育課）

司会：笹森洋樹（国立特別支援教育総合研究所）

概要：小学校時代に通級による指導を受けていたフワリさんと堀川淳子氏，田中裕一氏の鼎談という形でシンポジウムが進められた。大学生になったフワリさんの現在の状況や、通級による指導を受けていた当時を振り返り、楽しかった学習や現在の学習、生活につながっている当時の指導内容などについて、動画等も交えながら紹介された。シンポジウムを通して、通級による指導を受けている子ども達に対しては、「通級による指導で学んだことは将来につながる」、通級による指導を担当している先生方に向けては、「できる限り子どもの気持ちに寄り添ってほしい」とのメッセージが発信された。

参加者からは、「自身の通級による指導を振り返



写真1 シンポジウム「通級による指導とわたし」
：会場の様子



写真2 研究パネル展示及び配信講義放映等
：会場の様子

るきっかけとなった」、「通級を利用している本人と一緒に、指導・支援の内容，教育制度や学校現場を考えていくことの重要性を感じた」といった感想が寄せられた。

3) 分科会

通級による指導に係り重要となる下記の三つのテーマを設定し、分科会を実施した。各分科会では、講師による事例提案とグループ協議が行われた。

参加者からは「全国の先生方と事例検討ができたのは、とても勉強になった」、「今後の指導や研修に生かせる材料を得ることができた」、「地域、校種を超えて様々な情報交換をすることができ有意義であった」などの感想が寄せられた。

各分科会の概要について、以下に述べる。

(1) 第1分科会

テーマ：「的確な実態把握・アセスメントと効果的な指導」

講師：札幌市立南月寒小学校 山下公司氏

助言者：埼玉大学 名越斉子氏

概要：講師から提供された事例をもとに、「子どもの特性とそれにあつた指導・支援方法」、「通常の学級や中学校進学に向けた配慮」について協議した。その後、講師から実際の指導や支援、助言者からアセスメントや指導を考える際のポイントについて解説がなされた。



写真3 分科会：会場の様子

(2) 第2分科会

テーマ：「通常の学級と通級による指導の連携と学びの連続性」

講師：豊橋市立二川南小学校 河合良介氏

助言者：新潟大学教職大学院 長澤正樹氏

概要：講師からの話題提供をふまえて、「通級による指導が通常の学級で生かされるために必要なことや工夫」、「それらを支える仕組み(体制)や研修」等について協議した。その後、講師から実践事例を含む話題提供があり、助言者より学校全体での支援体制構築のポイントについて解説がなされた。



写真4 分科会：グループ協議の様子

(3) 第3分科会

テーマ：「中学校・高等学校における通級による指導の在り方」

講師：仙台市立高砂中学校 伊藤陽子氏

助言者：宮城教育大学 植木田潤氏

概要：講師より中学校・高等学校における通級指導教室の在り方について話題提供がなされ、「中学校から通級が開始された場合に大切にすべき視点」、「中学から高校への引継ぎとして重要な事項と高等学校における通級による指導で大切にすべき視点」について協議した。その後、助言者より思春期を一つのキーワードとして解説がなされた。

を図り、さらに地域住民や企業の方など広く一般の方々への理解を図ることを目的として、都道府県及び市区町村教育委員会、教育センター等と連携・協働し、最新情報の提供や理解啓発活動を行うこととしている。

実施に当たっては、希望する自治体を公募し、理解啓発の内容や方法、対象等について、各自自治体の意向を十分に汲みながら検討する。事業の展開例として、(1) 発達障害に関する展示・ワークショップと専門家によるシンポジウム等との組合せ、(2) 発達障害に関する展示・ワークショップと教職員研修の組合せ、(3) 発達障害に関する展示・ワークショップを中心、などが考えられる。

今年度の発達障害地域理解啓発事業は、習志野市、川崎市、徳島県、宮崎県の計4か所で実施した。各概要を以下に述べる。

Ⅲ. 発達障害地域理解啓発事業

発達障害地域理解啓発事業は、発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援

1. 習志野市

開催日時：8月2日（水）12時～16時10分

開催場所：習志野市文化ホール ホワイエ

連携機関：習志野市ひまわり発達相談センター等

対象：市民及び教育・福祉・保健に携わる関係者等

概要：実施形態は展開例（1）で、ひまわり発達相談センター開設5周年記念事業「子どもたちの学び合いと育ち合いを考えるシンポジウム」（習志野市、一般財団法人自治総合センター主催、千葉県教育委員会、習志野市教育委員会等後援）の一環として実施された。ホワイエに発達障害に関する理解啓発ワークショップのコーナーを設置し、教材教具等の紹介、研修講義DVDの放映や教材教具の活用に関する相談等を行った。映画上映、講演、パネルディスカッションで構成されたシンポジウムの定員は1,475名で、休憩時間を中心に多くの関係者や保護者、子ども達がワークショップのコーナーを訪れた。

2. 川崎市

開催日時：8月7日（月）9時30分～13時30分

開催場所：川崎市総合福祉センター（エポック中原）

連携機関：川崎市教育委員会、川崎市発達相談支援センター

対象：市民及び川崎市の教員等

概要：実施形態は展開例（2）で、川崎市教育委員会主催の教員研修会との組合せであった。教員研修会の講義を当センターのセンター長が担当し（講義タイトルは「学校の中での合理的配慮」）、研修会の参加者は約100名であった。

併せて理解啓発ワークショップとして、ミニ研修講義、心理的疑似体験、教材教具等展示、研究紹介のコーナーを設け、各コーナーでの対応に川崎市教育委員会スタッフの協力を得た。また、川崎市発達相談支援センターの作品展示コーナーも理解啓発ワークショップと同じ会場内に設置された。教員の参加が多かったが、保護者や福祉関係者等の参加もあった。



写真5 教材教具の展示：習志野市



写真6 ミニ研修講義（右奥は心理的疑似体験コーナー）：川崎市



写真7 心理的疑似体験コーナー（注意の困難さ）：川崎市



写真8 心理的疑似体験コーナー(不器用さ)：川崎市



写真9 心理的疑似体験コーナー：徳島県

3. 徳島県

開催日時：8月23日(水)10時～13時

開催場所：徳島県立総合教育センター

連携機関：徳島県教育委員会

概要：実施形態は展開例(2)で、徳島県教育委員会主催の教員研修会との組合せであった。教員研修会の講義を当センターのセンター長が担当し(講義タイトルは「多様なニーズに応える特別支援教育の在り方」)、研修会の参加者は約200名であった。

併せて、理解啓発ワークショップとして、心理的疑似体験、教材教具等展示、研修講義DVD視聴のコーナーを設けた。研修会参加者の大半が研修会の昼休みにワークショップの各コーナーを訪れ、会場は熱気に包まれた。



写真10 会場全体の様子：徳島県

4. 宮崎県

開催日時：11月16日(木)9時40分～16時

開催場所：新富町文化館 ルピナスみらい

連携機関：宮崎県教育委員会、宮崎県立児湯びなす支援学校、西都児湯エリアサポート推進協議会等

対象：一般県民、教員

概要：実施形態は展開例(1)で、宮崎県教育委員会の主催する特別支援教育フォーラム第I部の一環として実施した。フォーラムの参加者は約400名で、教員と同数程度、保護者等の参加があった。

午前中に理解啓発ワークショップを行い、心理的疑似体験、教材教具等展示、研修講義DVD視聴、研究紹介の各コーナーでは、連携機関のスタッフの協力を得て参加者への対応を行った。

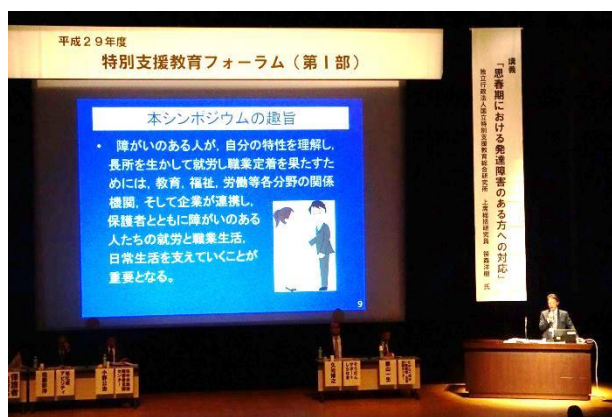


写真11 シンポジウム(趣旨説明)の様子：宮崎県

午後には、当センターのセンター長による講義(タイトルは「思春期の発達障害のある子どもにどう向き合うか」)、シンポジウム(タイトルは「発達障がい者の社会参加について～あなたがあなたの仕事をするために～」)が行われた。シンポジウムでは、当

センターのメンバーが司会を務め、保護者、企業、福祉、労働の立場から5人の登壇者による話題提供があった。

フォーラムの様子は、「発達障害 対応学ぶ 教育関係者らフォーラム」との見出しで地元紙の翌朝朝刊に掲載され（吉田，2017），県民に広く紹介された。

IV. おわりに

発達障害教育推進センターの新規事業である，発達障害教育実践セミナーと発達障害地域理解啓発事業について今年度の取組を紹介した。

発達障害教育実践セミナーでは，Web 申込み開始後，1週間程で定員に達し，早々に受付を終了する状況となった。また，発達障害地域理解啓発事業でも多くの参加者を得た。これらのことから，発達障害教育に関して学ぶ機会が求められていることを強く感じた。二つの事業について，多くの参加者が高い満足度や肯定的なコメントを示して下さった。以上のことは，我々にとって大きな励みであると同時に責務の重さを再認識させるものでもあった。また取組の中で示された課題もあった。

二つの事業について，すでに来年度に向けて準備が始まっている。発達障害教育に関する理解推進と実践的な指導力の向上を図るという発達障害教育推進センターの新たなミッションを果たすため，関係機関等と十分な連携を図りながら，引き続き取り組んでいく。

引用・参考文献

- 国立特別支援教育総合研究所（2017）. 平成29年度発達障害教育実践セミナー実施要項.
- 国立特別支援教育総合研究所（2017）. 平成29年度発達障害地域理解啓発事業実施要項.
- 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター（2017）. 平成29年度発達障害実践セミナー. http://icedd.nise.go.jp/?page_id=1562（アクセス日，2017-11-10）.
- 習志野市（2017）. 習志野市ひまわり発達相談センター開設5周年記念事業チラシ.
- 宮崎県教育委員会（2017）. 平成29年特別支援教育

フォーラム（第I部）実施要項.

文部科学省（2011）. 資料3：障害種別の学校における「合理的配慮」の観点（案）. 特別支援教育の在り方に関する特別委員会 合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ（第7回）配布資料.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo/3/046/siryu/attach/1314384.htm（アクセス日，2017-12-04）.

吉田聡史（2017）. 発達障害 対応学ぶ 教育関係者らフォーラム. 宮崎日日新聞 11月17日朝刊.